

# 大豆技術情報(第4号)

令和4年10月  
富山農林振興センター  
富山市農業協同組合

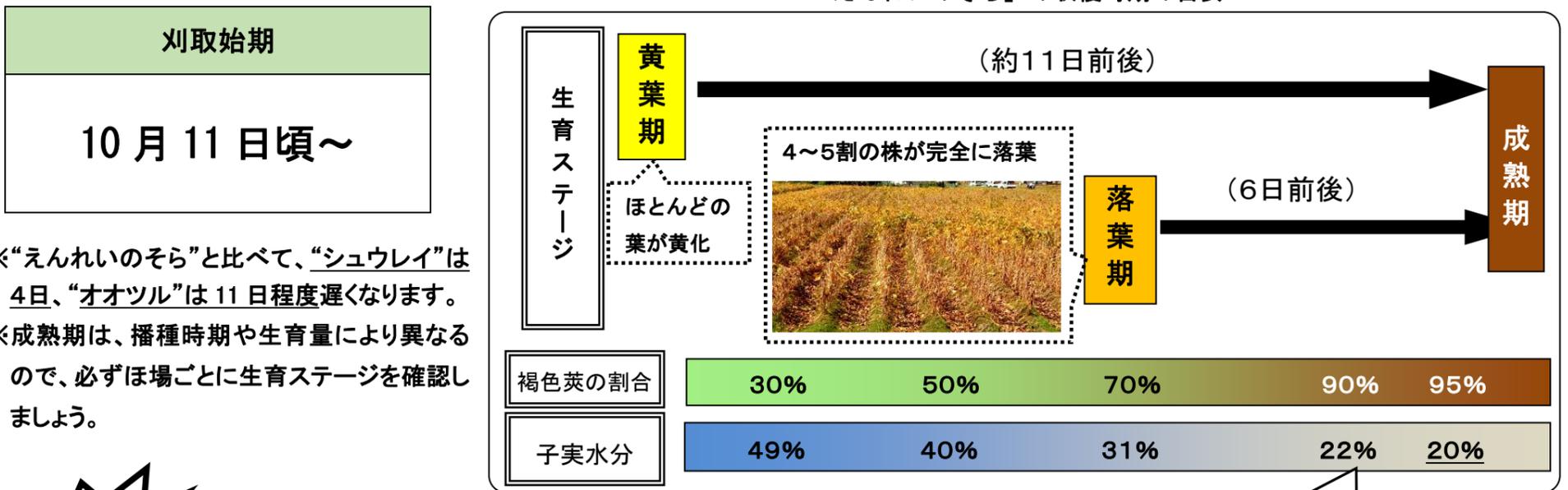
まもなく大豆の収穫時期となります。

「黄葉期」や「落葉期」を基に「成熟期」を予想し、莢の90%以上が褐色になった頃(子実水分22%)を確認してから収穫を始めましょう。

## 刈取始期の判定

- ・ほ場毎に成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
- ・えんれいのそらでは、莢の90%以上が褐色になった頃(子実水分22%)から刈り始めましょう。
- ・「シュウレイ」、「オオツル」は、子実水分20%以下(ほとんどの株の莢が褐色となり、日中、莢を軽く弾いて音がする頃を目安)になったら収穫しましょう。

「えんれいのそら」の収穫時期の目安



※“えんれいのそら”と比べて、“シュウレイ”は4日、“オオツル”は11日程度遅くなります。  
※成熟期は、播種時期や生育量により異なるので、必ずほ場ごとに生育ステージを確認しましょう。

**注意!**

刈り遅れると、しわ粒や腐敗粒が増加します。  
茎の色が褐色になっていなくても、莢色を優先して収穫してください。

しわ粒軽減のため  
22%から刈り始め

## 収穫作業

- ・汚損粒防止のため、収穫前に帰化アサガオ類(写真1)やイヌホオズキ等の大きな雑草や青立ち株を必ず抜き取るとともに、土をかき込まないよう刈取り高さは地際から10cm程度(写真2)に調整しましょう。
- ・収穫は、午前10時～午後4時を目安とし、莢が乾いていることを確認してから行いましょう。
- ・作業速度は0.4～0.8m/秒(2.9km/時)程度とし、大豆の生育量が大きい場合は、更に速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。
- ・黒根腐病が発生したほ場は早期に落葉するため、刈遅れないようにしましょう。また、発病により小粒化するとともにしわ粒が増加するため、別刈りを行いましょう。土壌伝染性病害である本病のまん延を防ぐため、収穫作業は無発生ほ場から行い、収穫作業後は機械を洗浄しましょう。



写真1 帰化アサガオ類



写真2 コンバインによる適期収穫および適正な刈取り高さ

## 次年度対策

### ① 土づくり

- ・鶏ふん等の堆肥の施用や緑肥作物(レンゲ等)の作付け・すき込みにより、収量や品質の向上を図りましょう。
- ※レンゲの播種は、10月中旬までに行うとともに、しっかりと排水溝を設置しましょう。

### ② 排水対策

- ・次年度の作付予定地は、地表からの排水を促すため、年内を目処に額縁排水溝を設置しましょう。
- ・心土破碎や弾丸暗渠の設置により透水性の改善を行い、ほ場の乾きを良くしましょう。

<秋の農作業安全運動(8月20日～10月20日)実施中>